

R6年度 長野市（北部・南部）障害者相談支援センター活動報告

長野市障害者相談支援センターの体制

北部《もんぜんぷら座6階》 R3.4～ ○北部センター長 ○北部センター専門員（5名）	南部《ハーモニー桃の郷3階》 R1.7～ ○南部センター長 ○南部センター専門員（4名） ○地域移行コーディネートセンター専門員（1名）
--	--

《活動実績》

* 下線箇所は、今年度の新たな取り組み

- 総合相談窓口としての業務
- 南北センターミーティング（月1回）
 - ・情報共有/新規ケース・継続ケースの報告 ⇒ 見える化し、ケースを分析
 - ・事例検討/センター専門員の質の担保
- 相談支援事業所のバックアップ/個別ケース相談、地域での連絡会の開催、情報の連絡・周知
- 関係機関との連携・社会資源とのネットワークづくり
- 地域での啓発活動報告（障害理解・虐待防止等研修会協力、他分野企画の催し・会議への参加）
- 長野市障害ふくしネット（協議会）への参画、委託事務局（南部）

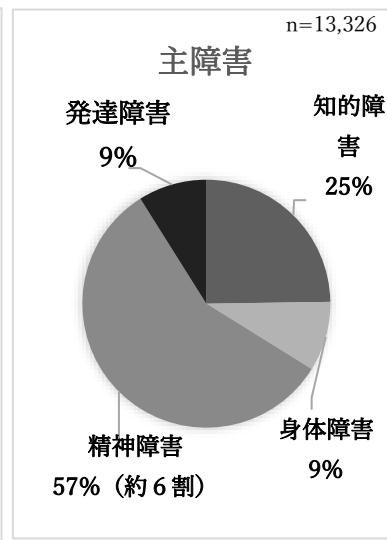
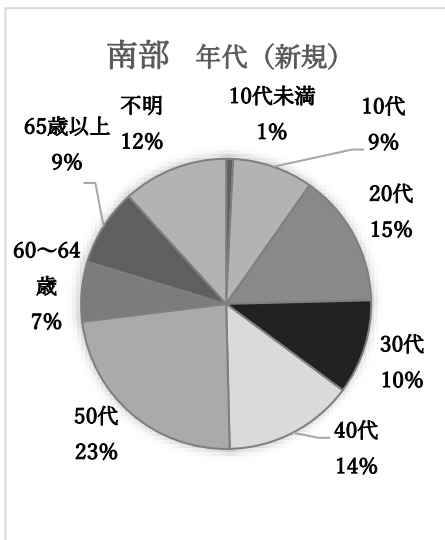
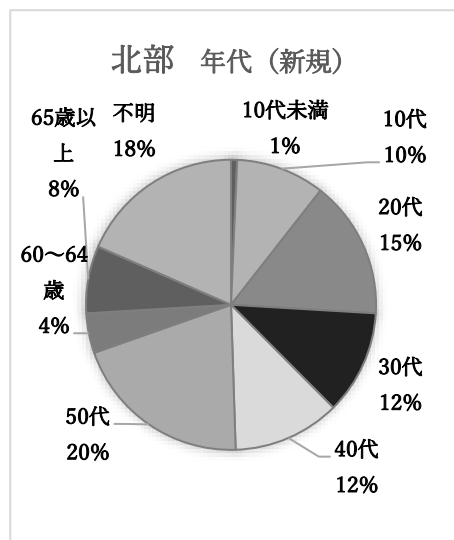
（延べ、重複あり4月～12月）

（延べ、重複あり4月～12月）

主な相談内容	R5	R6
福祉サービスの利用等	7,418	7,671
健康・医療	2,410	3,147
不安の解消・情緒の安定	2,361	2,604
障害や症状の理解	2,300	2,586
生活技術	2,203	2,702
家族・人間関係	2,093	2,622
就労関係	1,871	2,319
他	3,792	5,427
合計	24,448	29,078

相談者	R5	R6
○本人	4,275	4,815
○家族	1,559	1,554
○関係機関	5,961	6,957
※行政、保健センター、保健所、医療機関、介護保険関係、相談支援事業所、就労支援機関、生活困窮支援機関、学校関係、地域支援者、相談支援センター等		
合計	11,795	13,326

相談方法
電話
訪問
来所
メール



総括（相談内容から見えてきた現状・課題）

○福祉サービスの利用相談等から見えてきたもの

・就労（仕事）の相談

就労系サービス希望や主訴の多くは「出来れば（いずれは）働きたい」。相談のタイミングとすると、①10代から20代前半では休学や不登校のきっかけを含む学齢期終了後から②就労経験はあるがブランクがある方③家居中心の生活から社会参加を目指す方が繋がってきている状況が見られる。

近年シニアになっても長く働き続ける社会情勢から、生活していくため（収入を得る、張り合いを持つなど）一つの雇用先のような選択肢として障害福祉サービスの就労継続支援B型の利用を希望する相談もある。

・住まいの相談

GHが地域で万能な受け皿として期待され、問い合わせが多い現状がある。実際にはGHで提供できる支援がご本人のニーズを満たすとも限らないため、その他の様々な社会資源の活用も視野に入れながらご本人が安心できる生活について検討していく必要がある。一人暮らしを支える福祉サービスとしては自立生活援助や地域定着支援といったものもあるが、現状としてサービス提供事業所が限られているなど、GH以外の選択肢を検討するにあたっての課題もある。ひとりひとりに合った居住バリエーションを広げていく必要性を感じている。

○関係機関との連携の必要性

関係機関からつながる相談が増えている。南北センター窓口の周知が整い機能してきた結果である一方、多様な相談が増えているとも考えられる。

相談内容としては、上記にある就労や住まいの相談に限らず、介護保険の併給や身寄りのない方の相談、また、長年福祉サービスの利用がなく、ご家族に支えられて自宅で暮らしてきた方の今後についての相談など様々である。相談内容に応じて、障害福祉だけでなく、介護保険ほか関係機関と共に連携していく必要がある。